

令和7年度

石井町高川原小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分で考え、判断し、主体的に学習に取り組む児童の育成
- ポジティブな行動支援を取り入れた授業の実践

校長

齋藤 弘人

学力向上推進員

近藤 淳子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○教科学習や読み聞かせ等、言葉を大切にしたり取り組みを継続することで、語彙が増えつつある。 ●身に付けた知識・技能の定着や適切に使う力について、個人差が大きい。	・既習の文字や漢字の読み書き、また計算の仕方の大体を身に付けることができる。（学校アンケート80％以上） ・身に付いた個別の技能について、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・練習問題に取り組む時間を確保するとともに、短時間にできるマス計算やミニ漢字テスト等に継続的に取り組む。 ・前学年で学習した内容や広い範囲から出題する等、定着を図るための工夫をする。 ・教員が相互に授業参観を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ICTやホワイトボード等を活用しながら、表現の仕方を工夫したりお互いの考えを知ろうとしたりする姿が見られる。 ●自分の考えを自分の言葉でまとめたり伝えたりする力に課題がある。	・聞いたことや伝えたいこと・考えたことを、自分の言葉や図・表などを使ってまとめたり、表現したりできる。（学校アンケート70％以上）	・意見を集約したり考えを分かりやすく表現したりするために、適切な問い返しや板書の活用等、指導法を工夫する。 ・表現の仕方の具体例を提示するなどし、積極的に表現できるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○一人一人のつぶやきには、よいものがあり、少人数の話し合いには、進んで参加しようとする姿が見られる。 ●全体で考えを交流する場では、進んで発表する児童が固定化されやすい。	・各教科の学習に意欲的に取り組み、進んで自分の意見や考えを伝えようとしている。（学校アンケート80％以上）	・問題提示の工夫や児童の問いを生かしためあてづくりで、問題解決への意欲を高める。 ・ペア学習やグループ学習等、様々な学習形態を取り入れ、主体的に学習に取り組む意欲を高める。 ・言語環境を整えたり指導方法を工夫したりすることで、表現しようとする意欲を高める。			